

レクリエーション公認指導者を対象としたフォローアップセミナーのマネジメント
－企画者・参加者の両視点に着目して－

橋浦 孝明 仲野 隆士 柳 久恒

キーワード：レクリエーション公認指導者，フォローアップセミナー，マネジメント

A study on the management and follow-up seminar targeted qualified recreation
persons
－Focussing on brth aspects of the providers and participants－

Takaaki HASHIURA Takashi NAKANO Hisatsune YANAGI

Abstract

It can be assumed that the main purpose of this research was to clarify the project, the management solution, and the participant trend of 47 administrative divisions. Recreation association of "Official recognition leader return current business follow-up seminar" that is the activity support measures against the official recognition leader, and to obtain basic material of the project and the management solution for the follow-up seminar in this research. As for Miyagi Prefecture Recreation Associatino follow-up seminar participants had various characteristics, for example the participation rate of the woman is high. A participation rate in the fifties and another onein the sixties is high. Housewife's participation rate is also high. The rate of re-participation is extremely high. The majority have qualified as a volunteer. The main report source of this seminar is DM from the association. Fewer people participated after they saw the homepage, it is thought.

The difficulty of the securing participants is a nationwide problem and is common as soon by the result of the questionnaire of 47 administrative divisions. The administrative Divisions Recreation Association is large-scale it holds ten times or more persons and has had cooperation with another group and another association. This dialog demonstrates the effects it has in securing participants. It was clarified.

Key words : Recreation official recognition leader, Follow-up seminar, Management

I. 研究の目的

現在、レクリエーション指導者資格は、行政改革の一環として文部科学大臣による「スポーツ指導者の知識・技能審査事業」の廃止などを受けた。一方、介護福祉士養成課程からレクリエーション科目が削除されるという見直しも行われている。

山田(2005)らによる「レクリエーション資格の取得意識に関する調査研究」によると、課程認定校における「レクリエーション資格取得の意識」と「受講後の満足度」と「資格取得後の活動意識」は相互に高い関係性を有していると報告されている。しかし、資格取得後の活動の情報収集の媒体役を担う地元レクリエーション協会に対する意識が低く、公認指導者への活動支援対策への課題が挙げられている。

また、課程認定校での取得者数は増加している反面、レクリエーション・インストラクター資格の一般講習会による資格取得者数が低下している。それに伴い、公認指導者の知識・技術や資質なども大きく変化しているように感じられる。

近年の少子高齢化などにより、レクリエーションニーズも多様化・専門化している。しかし、レクリエーション公認指導者の「一時資格保有者」化も進んでいるのではないだろうか。

公認指導者の知識・技術や資質向上を目的とした「公認指導者還流フォローアップ事業、フォローアップセミナー（以下フォローアップセミナー）」に関して、宮城県では現在、参加者確保が非常に困難であるが、それに対する工夫や努力はそれ程行われていない。製品ライフサイクル（product lifecycle）にあてはめると、導入期から成長期・成熟期を経て、衰退期に移行していると考えられる。この状態が続くのであれば、近い将来、フォローアップセミナーは「中断」、もしくは「消滅」も考えられる。

このようにレクリエーション資格の質の低下とニーズの多様化・専門化などにより、レクリエーションニーズとそれに応える公認指導者との間に大きなずれが生じてきているのではないだろうか。

そこで本研究では、47 都道府県レクリエーション協会の「公認指導者還流事業フォローアップセミナー」の企画・運営方法と参加

者動向を明らかにし、フォローアップセミナーの企画・運営方法の基礎的資料を得ることを主たる目的とした。

II. 研究の方法

1. 各都道府県レクリエーション協会、フォローアップセミナー事業、企画・運営担当責任者を対象としたアンケート調査

1) 調査対象および方法

各都道府県レク協会、フォローアップセミナー事業、企画・運営担当責任者 47 名を対象とし、質問紙による郵送法を用いて調査を実施した。

2) 回収結果

回収数は、47 件（100%）であった。また、有効回答率は 100%であった。

3) 調査期間

平成 19 年 11 月 8 日～22 日

4) 調査項目

【フォローアップセミナーに関する事項】

「企画メンバー」、「参加者確保」、「今年度開催方針」、「開催場所」、「開催曜日」、「参加費」、「一般の受け入れ」、「広報方法」、「企画メンバー」、「運営メンバー」、「スタッフ手当て」、「公認指導者のニーズ」、「参加者の期待値」、「公認指導者支援」

【協会の属性】

「協会会員数」、「協会の法人化」

【回答者の個人的属性】

「役職」、「性別」、「年齢」

2. 宮城県におけるフォローアップセミナー参加者を対象としたアンケート調査

1) 調査対象および方法

宮城県におけるフォローアップセミナー参加者に対して、質問紙による直接配布法により実施した。

2) 回収結果

第1回目 9件 (75%)

第2回目 14件 (100%)

第3回目 10件 (56%)

【有効回答数 (率)】

- 第1回目 9件 (100%)
 第2回目 14件 (100%)
 第3回目 10件 (100%)

3) 調査期間

- 第1回目 平成19年9月1日 (土)
 第2回目 平成19年9月19日 (水)
 第3回目 平成19年10月13日 (土)

4) 調査項目

- 【フォローアップセミナーに関する事項】
 「情報源」、「参加基準」、「満足度」、「参加歴」、「今後の参加」、「資格活用方法」
 【個人的属性】
 「性別」、「年齢」、「結婚歴」、「職業」、「持っている資格」

III. 結果と考察

1. フォローアップ企画・運営側

1) フォローアップセミナー参加者確保について

参加者確保について、表1-1を見てみると、参加者確保が「大変である」と回答したのが71.7%にも上った。

ブロック別に見ても有意差はなく参加者確保は全国的に大変であるということが明らかになった。

表1-1. ブロック別参加者確保について

		大変である	大変ではない	合計
北海道・東北	N	4	3	7
	%	57.1	42.9	100.0
関東・北信越	N	6	4	10
	%	60.0	40.0	100.0
東海・北陸	N	5	2	7
	%	71.4	28.6	100.0
近畿	N	5	1	6
	%	83.3	16.7	100.0
中国・四国	N	7	1	8
	%	87.5	12.5	100.0
九州・沖縄	N	6	2	8
	%	75.0	25.0	100.0
合計	N	33	13	46
	%	71.7	28.3	100.0

2) 開催回数

10回以上の大規模な開催を実施している都道府県では、参加者確保は大変ではないという回答があった。その理由を自由記述から見えていくと、次のような回答が挙げられた。

- ・ 県教育委員会からの受託 (30回開催)
- ・ 20回 (福祉系) 活動助成 5万円を年間交付している 2 団体で実施。事務局主導主義ではなく、各委員会が実施したことによる

表1-2. 今年度開催数と参加者確保

		参加者確保		合計
		大変である	大変ではない	
1~3回	N	25	10	35
	%	71.4	28.6	100.0
4~6回	N	8	0	8
	%	100.0	0.0	100.0
7回以上	N	0	3	3
	%	0.0	100.0	100.0
合計	N	33	13	46
	%	71.7	28.3	100.0

$\chi^2 = 0.014$ $p < 0.05$ *

2) 事業形態別参加者確保

参加者確保が「大変ではない」と回答した割合は、不完全型、プロダクトアウト型、マーケットイン型、ダイアログ型の順に高くなっていくことがわかった (表 2)。

レクリエーションのニーズが多様化・専門化している現在、ニーズの把握を行っていかず、ニーズの把握を行っていかず、企画・運営に反映させていかなかったり、企画・運営に反映させていかなかったりした場合は、参加者は確保しにくいと考えられる。また、一方通行のプロダクトアウト型においても同様のことが言えるのではないだろうか。また、アンケートなどによるニーズの把握は完全ではないことが予測される。ニーズの多様化・専門化が進んでいる現在では、参加者自身も個人のニーズが明確にはわからないのが実情であろう。それゆえに、参加者、企画者の「対話」により、参加者からニーズを引き出し、企画・運営を行っているダイアログ型が参加者を最も確保できているのであろう。

表2. 事業形態と参加者確保

		参加者確保		合計
		大変である	大変ではない	
プロダクトアウト型	N	7	2	9
	%	77.8	22.2	100.0
マーケットイン型	N	13	5	18
	%	72.2	27.8	100.0
ダイアログ型	N	0	3	3
	%	0.0	100.0	100.0
不完全型	N	13	3	16
	%	81.3	18.8	100.0
合計	N	33	13	46
	%	71.7	28.3	100.0

3) フォローアップセミナーの問題点・課題点
(自由記述)

フォローアップセミナーの問題点・課題点を自由記述の回答を基に図式にまとめたものが、図1である。

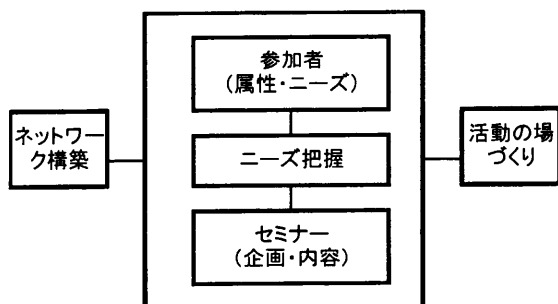


図1. フォローアップセミナーの問題点・課題点

〈参加者（属性・ニーズ）〉

- 参加者の確保，参加者のレベル差，広域性の対応
- 参加した方はよかったといって次回も参加してくれるが，新しい参加者がなかなか増えない

〈ニーズ把握〉

- 会員のニーズの捉え方に甘さがあり，魅力ある内容ではない
- 本当にニーズに合った内容を開催し，広報して沢山の参加者を集めること

〈セミナー（企画・内容）〉

- 委員の中で企画・運営しているため，内容が片寄ってしまい，仲良しクラブのような状態である．有資格者の勉強の場としてはほしい
- スタッフの確保，事業の企画
- 内容（講師共）に進展性がない．いつも代わり映えしない同じ内容との苦情もある．狙い，対象，スキルの内容が具体的に知らしめる企画がむずかしいし，悩みである（セミナーの魅力づくり）

〈ネットワーク構築〉

- 今後フォローアップセミナーに参加した皆さんをどのように協会事業と結び付けていくか，活動の場やチャンスを与えられるよう，人材のネットワーク化が図れるだろうか問題である
- 全国から有名な講師を呼んでも，その講師

がどのような活動をしているのか知らない

〈活動の場づくり〉

- 福祉レクの場合，施設等の職員は必要に迫られて参加する人が多いが，一般の公認指導者は，日頃活動の場がないせいかフォローアップを主催しても参加する人は少ない
- 専門的なニーズに答えられるもの．セミナーで受講した者が，それを活かした活動を支援する．活動の場をつくる，組織づくり

2. 宮城県におけるフォローアップセミナー参加者側

1). 参加者プロフィール（1～3回の総数）

「女性」が87.9%と非常に高い割合を示した．年齢では，「50～60歳代」が7割を超えていた．また，「既婚」が7割を超えていた．職業で最も高い割合を示したのが「主婦」で，3割を超えていた．フォローアップセミナーリピーター率も8割を超えていた．

表3. 参加者プロフィール

個人属性	N	%	持っている資格	N	%
性別			インストラクター	20	69.0
男	4	12.1	コーディネーター・福祉レク	2	6.9
女	29	87.9	インストラクター・福祉レク	4	13.8
年齢			インストラクター・コーディネーター・福祉レク	1	3.4
20歳代	2	6.9	資格を持っていない	2	6.9
30歳代	5	17.2	参加歴		
40歳代	1	3.4	ある	27	81.8
50歳代	12	41.4	ない	6	18.2
60歳代	9	31.0	結婚歴		
未婚	8	24.2	未婚	25	75.8
既婚	25	75.8	職業		
職業			会社員	1	3.0
会社員	1	3.0	教員	3	9.1
教員	3	9.1	福祉施設職員	5	15.2
福祉施設職員	5	15.2	自営業	1	3.0
自営業	1	3.0	主婦	11	33.3
主婦	11	33.3	学生	1	3.0
学生	1	3.0	パート・アルバイト	8	24.2
パート・アルバイト	8	24.2	無職	1	3.0
無職	1	3.0	その他	2	6.1
その他	2	6.1			

2). 情報源

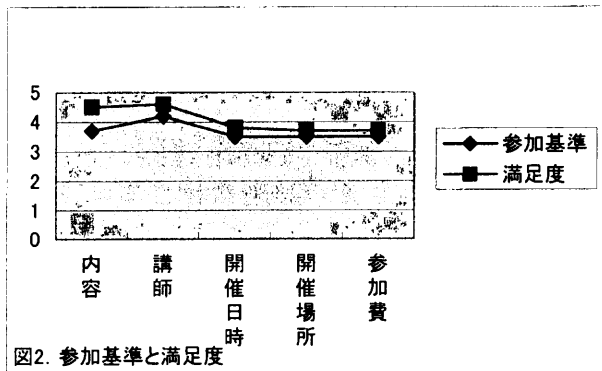
「開催のお知らせを見て」と回答した人が 7 割弱であった。しかし、「宮城県レク協会のホームページを見て」と回答した人は 1 人のみであった。ホームページに関しては、改善の余地があると考えられる。

- ・再参加率が極めて高い
- ・大半がボランティアとして資格を活用している
- ・セミナーの主な情報源は協会からの DM
- ・ホームページを見て参加に至る人は少ない

表4. 情報源

	N	%
開催のお知らせを見て	23	69.7
宮城県レクリエーション協会のHPを見	1	3.0
友人・知人から	6	18.2
その他	3	9.1
合計	43	####

3) 参加基準と満足度



全体を通して、参加者の満足度を得ることができていたことが考えられる。特に、「内容」、「講師」などはより高い満足度を得ることができていたと考えられる。

IV. 結論

1) フォローアップセミナー企画・運営者への調査より

- ・参加者確保の困難さは、全国共通である
- ・10回以上の大規模開催を行っている都道府県レク協会は、他団体・他協会と連携を取って開催している
- ・ダイアログ型が参加者確保に最も効果を発揮している

2) 宮城県レク協会フォローアップセミナー参加者の諸特性

- ・女性の参加率が高い
- ・50歳代・60歳代の参加率が高い
- ・主婦の参加率が高い

以上の結果から、宮城県におけるセミナー参加者は、子育てが落ち着いた主婦を中心に、ロイヤリティ・向上心が高い公認指導者が参加する傾向にあることがわかった。また、参加者の多くは、資格を主にボランティアとして活用していることがわかった。

V. 提言

今後の宮城県レク協会が提供するフォローアップセミナーを活性化するためには、その手始めとして「広告とホームページの充実」などのプロモーション戦略に力を入れることが望まれる。

さらに、フォローアップセミナー参加者へのヒアリングやフィールドワークを試みた結果から、セミナー活性化の具体策は次の5項目に絞り込むことができた。

- (1) 参加者（属性・ニーズ）把握
- (2) ニーズ把握の徹底
- (3) セミナー（企画・内容）
- (4) ネットワーク構築
- (5) 活動の場づくり

現在、各都道府県レク協会では、一つないし二つの項目に関する努力・工夫は行われているようだが、残念ながら参加者確保に結びついていない場合が多いようである。したがって、今後は上記の項目への取り組みを複合的に進め、フォローアップセミナーの企画・運営に反映することが肝要である。

個々の都道府県レク協会は、歴史、会員数をはじめ、その他の会の集团的属性要因が異なる。そこで、協会の実情も考慮しつつ、各種セミナーの活性化のために上記5項目を今後の企画・運営に充分反映させ、参加者確保に結び付けていくべきであろう。

また、事業形態として、ダイアログ型の試行を提案したい。参加者と企画者の「対話」により参加者のニーズを抽出し、セミナーのテーマや内容に反映させることによって、参

加者の確保が促進されるであろう。しかし、企画内容によっては、むしろプロダクトアウト型の方が効果を発揮することもある。大事なことは、個々のテーマや企画内容、対象となるセグメントに応じて事業形態を変更し、最も効果的なマネジメントを考えていただきたい。

また、各都道府県レク協会の企画・運営方法などの情報の共有、すなわちネットワーク強化が望まれる。なぜなら、フォローアップセミナーの企画・運営は規制や決まりがないことから、企画・運営スタッフは企画・運営に苦勞していることが予想され、情報の交換や共有が相互の協会にメリットをもたらすと考えられるからである。

ここで、フォローアップセミナーはレクリエーション資格を取得するベネフィット（便益）の一つであり、今後の公認指導者数、資格更新率にも影響を及ぼすものに違いない。一連のマネジメントを通じた努力や創意工夫によって、各種のフォローアップセミナーに魅力を添加して欲しい。

一方、統括組織としての役割を担う日レク協会には、本研究で得られた知見を参考に、セミナーの活性化に対し、これまで以上に積極的に取り組んでもらいたい。なぜならば、セミナーの活性化は公認指導者のスキルアップや専門志向を高め、有資格者全体の質の高まりに繋がるからである。そのためにも、将来的には、より専門的な資格の付与も検討されてよいであろう。フォローアップセミナー活性化の最たる要因になるに違いない。

VI. 今後の課題

本研究は、各都道府県レク協会フォローアップセミナーの企画・運営方法の把握に対し、一定の成果を得たといえる。しかし、セミナーの詳細に関しては、残念ながら宮城県におけるフォローアップセミナーの事例研究に留まってしまった。そこで、今後の課題として、下記に挙げる内容を中心に研究を進めて行きたいと考えている、

1) 十分なデータ確保による知見の一般化

本研究では、宮城県のみ参加者動向しか掴めていない。今後は、全国的に公認指導者のフォローアップセミナーに対する意識、また、フォローアップセミナー参加者の動向を把握する大規模な調査の必要があると思わ

れる。

2) スポーツ・マネジメント、スポーツ・マーケティング的アプローチの応用

本研究では、各都道府県レク協会の企画・運営方法を明らかにし、今後のフォローアップセミナーの活性化策を検討した。しかし、実際の活性化を巡る因果関係は、極めて複雑であろう。最後に、フォローアップセミナーを活性化させるためには、ダイナミックな発想の転換も必要であろう。その一つが、スポーツ・マネジメント、スポーツ・マーケティング的アプローチの応用という発想である。本研究を通して、その有効性が示唆されたと考えている。

引用参考文献

- 1)赤堀方哉・山口泰雄(1999)民間レクリエーション団体会員の継続意欲に関する研究
- 2)月間 REC7・8月号 (2007)財団法人日本レクリエーション協会発行:30-39
- 3)池田孝博・土井眞信・金崎良三・山田力也・田崎伸子・堤公一(2005)レクリエーション資格に関するイメージ分析
- 4)金井一頼監修(2007)顧客サービス業における組織とマネジメントの実態 平成18年度文部科学省委託事業専修学校教育重点支援プラン調査&報告書
- 5)金井一頼監修(2007)『サービス産業におけるマネジメント教本』平成18年度文部科学省委託事業専修学校教育重点支援プラン調査&報告書
- 6)Nigell hill John Brierley and Rob Mac Dougall 野川春夫・渡瀬美貴訳『成功する顧客満足度の測り方』ずうこむ
- 7)二宮浩彰(2007)『レクリエーションの行動科学』誠信社
- 8)原田宗彦編集 藤本淳也・松岡宏高(2004)『スポーツマーケティング』大修館書店
- 9)横山誠・相奈良律(2006)レクリエーション講習会参加者の特性とニーズについて
- 10)山田力也・土井眞信・金崎良三・堤公一・池田孝博・田崎伸子・滝口真(2005)レクリエーション資格の取得意識に関する調

査研究

- 11) 山口泰雄 (1996) 『生涯スポーツとイベントの社会学』 創文企画
- 12) 財団法人日本体育協会 (2006) 『公認アシスタントマネジャー養成テキスト』 ホクエツ印刷
- 13) 財団法人日本体育協会 (2006) 『公認クラブマネジャー養成テキスト』 ホクエツ印刷
- 14) 財団法人日本レクリエーション協会 (1995) 『イベント企画術ウォークラリーを中心に』 第一プリント
- 16) 財団法人日本レクリエーション協会 (1994) 『レクリエーション・コーディネーター共通科目テキスト』 財団法人日本レクリエーション協会
- 17) 財団法人日本レクリエーション協会 (2003) 『レクリエーション・コーディネートのすすめ方』 財団法人日本レクリエーション協会
- 18) 財団法人日本レクリエーション協会 (2005) 『やさしいレクリエーション実践』 財団法人日本レクリエーション協会
- 19) 財団法人日本レクリエーション協会 (2007) 『レクリエーション支援の基礎』 財団法人日本レクリエーション協会 : pp37-39. pp40-41. Pp45-49.